

日刊 發行家編輯人 川崎文治 本社 同番地 (電話六三〇番) 印刷所 常盤毎日印刷所

常盤新聞

定価 一月五元 三月十五元 半年三十元 一年六十元 郵送料別

廣告 五字一行 一日五錢 三日十錢 五日十五錢 十日三十錢 一月六十錢 一月以上特別

休刊日 日曜大祭 福島縣石城郡平町長崎町三三五番 發行所 常盤毎日新聞社 電話六三〇番

四月五日夕刊

警城セメント會社特約店

久全屋漆店

警城平町五丁目 電話九番 一三九番

▽良品廉賣は勝る商畧なし△

▽確實敏捷は釜屋の生命なり△



入院需應

平町紺屋町 電話長平五〇七番

内科、小兒科、花柳病科

藤沼醫院

江戸前料理 合巻

御試食になりましたか錦水の鳥料理の御献立一度御ためし下さい

出前は迅速

錦水

田町末廣東隣り 電話 四二二番 八〇三番

高久病院

院長 醫學士 高久 忠

副院長 新潟醫學士 赤羽 清

藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄

平町田町 電話五二三番

内科小兒科 外科花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科

神社問題私見

近藤 兵庫

(七)

其の爲に御神樂の奉納、賽銭、御札等は、それが通俗宗教の範圍を犯さぬ程度に嚴重に規定し、其の範圍のみを神社神道行政機關は監督し、其の神官は一定の資格を有する人格者を選任するやう心すべきであらう

若し神社にして、其の範圍を脱して、通俗宗教的行事を行ふ場合には、即ち講社を組織して教會類似のものを作り、教典を制定し

個人的な加治祈禱を行ひ等する場合には、同一神社内に行はれるとしても通俗宗教なみに宗教局の監督を受べきものであらうと思ふ

國民的大祭、伊勢神宮の大祭は全國の公認神社に於いても、祭禮を施行し其の日は大祭祝日中に入れて全國民國旗を掲揚し、夜は提燈を捧げて御祝申上ぐべきであると思ふ、何者私考の祭神は祖神の御分身と見ゆるべきであるからである、今日伊勢神宮の例祭よりは寧ろ靖國神社の祭禮が却て國民的意義を有つたか如く考へられてゐるのは、本末

世は三行の春 花は松ヶ岡……

花の松ヶ岡を一眼に見渡す良善寺下に

初音 合同賣店 を開設しました

座席は無料お一人様より百五十人様まで御用を辯じます

演舞場の設けが有りますから御用の方は一日前に電話にて御申付下さい

洋食、花見折詰、日本酒、ビール

ナイター、ユニオンビール

松ヶ岡向側

良善寺下

初音 合同賣店

電話 三三六番 三三一番

市原醫院

平町田町(電話一一四番)

内科、小兒科 市原卯太郎

外科一般、婦人科 市原 陸郎

外科、梅毒、淋毒 市原三三男

入院隨時

内臓外科 醫學博士 藤本 順

整形外科

産科 院長 木村寅次郎

婦人科

平町新川町 電話一六四番

木村病院

セメント 壁用材料

コールタール

ペンキ塗料

板ガラヌ

警城セメント株式會社

代理店 西村屋藥舖

平町二丁目(電三)

一冊の代金で 御希望通りな 自由の雑誌が 川崎巡文庫

電話六三〇番

(申込次第規則書進呈)

學生靴の大廉賣

可愛お小供様の通學用靴は森下商店に……

平町一丁目

森下商店

電話八六〇番

株式會社 百澤商店 第四期 決算報告

自昭和四年三月 至同 五年二月

貸借対照表

負債之部	資本金勘定	100,000.00
	法定積立金	5,000.00
	諸積立金	1,928.84
	配當準備金	1,000.00
	股受金勘定	1,893.33
	仕入先勘定	1,264.76
	商品切手	75.90
	前期繰越金	47.77
	前期利益金	1,333.24
	合計	123,477.64
資産之部	未拂込株金	25,000.00
	什器	1,570.77
	商品勘定	3,268.45
	受取手形	5,000.00
	得意先勘定	1,097.77
	金銀勘定	4,448.80
	當座預金	5,848.85
	振替貯金	3,732.47
	諸貸付金勘定	5,332.57
	土地建物	30,695.55
	滞貸金勘定	1,743.00
	合計	33,422.22
	右之通り候也	133,333.33

昭和五年四月一日

社長 百澤 易興

追而監査役任期満了ニ付改選ノ結果殿木松造、小川福作ノ兩氏當選就任ス

本縣醫師學術大會を

櫻の平町に開催決定

此の機を利用し郷土を紹介
平町の活況一段々

櫻下の平町に種々の催しあるは昨記の如くであるが来る廿日本縣醫師學術部大會第七回講演會及び懇親會も開催の豫定にて

縣下の 醫師約五百名参列の等であるが地元石

城郡醫師會にては記念品を贈呈し松ヶ岡公園の櫻、勿

来の關、川前溪谷、關御井嶽靈場、鶴屋崎燈台

新舞子 の濱等を案内し郷土紹介に努むる由に

醫學界の二權威來平

警中講堂で學術の講演

別項警城中學校講堂に開催
さるる本縣醫師學術部第七
回學術講演會は廿日午前九
時より開會、本縣醫師會長
白石西三氏の開會の辭に次
ぎ小柳本縣知事及び伏見平
町長の祝辭あり左記會員の
演説あつて

△臨床と並剖檢と興味あ
る粟粒結核の一例渡邊久
(石城) △野兎病病原體の
染色性並に分離培養法に
就て原重熊(石城) △婦人
科領域に於ける赤血球沈
降反應に關する余の實驗
林英郎(石城) △産褥熱に
對する「ヤト」レシカゼイ
ンシユタルク」の効果に
就て實川彌太郎(石城) △
木伊乃胎兒(寫眞供覽) 關
川啓喜(東白川) △鼻腔に
發生せる骨腫の一例に就
て増田之(石城) 所謂「リ
チャード」氏病の診斷に
就て藤本順(石城) △自家
考案酒井式輕便縫合器供
覽酒井國三郎(石城) 相馬
郡にて散見せる肺チスト
マ症に就て山田弘(相馬)
△眼科臨床談(イ) 縁内際

醫師大會

縣内總出で

盛況を豫想する本縣醫師
會學術部大會當日の役割左
記の如くである

▽接待係受付及宴會係白
石西三、酒井國三郎、鈴
木利滿、大原一、谷良治
目黒文吉郎、井戸川典隆
細堀順次郎、岩路軍次郎
宗像光雄、長谷川富士太
郎、渡邊興綱、長谷川亨
遠藤正亮、谷内肇、江藤
健雄、今村秀芳、人見友
衛、内山英三、太田貞喜
柴田四郎、齊藤松之、本
田慶五郎、佐久間重衛、
太田三郎、前野記次郎、
大宰多計司、丹野爲作、
森録三、高野寅助、星功
原乙儀、關格之助、市原
卯太郎、額賀襄、根本莊
次郎、鈴木亮、會田政治
郎、吉田安雄、中村三郎
久保田眞、門倉倉次郎、
増山茂吉郎、有馬公一、
大瀧有隣、籠倉寅三郎、
木村清治、永井元造、齊
藤孝平、小林美啓、蓬萊
信長、折笠意登、阿部瀧
藏、城戸泰脩、小松金吾

鑛業稅の委讓

貴族院に猛運動

石城郡で二十萬圓潤ふ

代表町村長上京

鑛業稅委讓問題は兼ねてよ
り今年の特別議會に提案す
べく各炭礦關係町で猛運
動中の處代表者なる湯本赤
井の兩町村長が此程上京し
政府へ交渉する事となつた
がこの鑛業稅移讓は九州北
海道等全國を通じての問題
にて下院の通過は十分見込
がある爲極力上院に運動す
る方針であると尙此が實現

各會社稅額

三割五分激減

平稅務署の調査する處によ
れば同署管内に於ける昭和

大場仙吉、安島直人、佐
藤直信、鈴木榮吉郎、首
藤慎一、田中靜、吉田芳
太郎、實川彌太郎、遠藤
淺香、赤羽清、賀澤忠治
氏家憲介、難波陸、桂重
次、松枝茂、川井重之、
(外補助員若干名)

四年度の法人營業收益稅は
法人百八十八件の中不課稅
七十六件を除き總額一萬二
千二百九十一圓法人第一種
所得稅は八千五百三十五圓
で前年度に比し何れも約三
割五分の減であるがこれは
財界不況の爲め各法人の收
入の減少したのによるもの
である

本日の交通

安全デーに

兒童の手傳ひ
本日の交通安全デーに平署
では平町の各十字路に係官
を出張せしめ例の如く交通
の整理を行つたが平第一小
學校の高等科兒童約三十名
も之に加はり左側通行啓勵
等の手傳をした

川崎本社長の

ラヂオ講演

八九兩日仙台で

家庭講座と童話
川崎本社長の仙台放送局に
於ける本月分の放送は八日
午前十時家庭講座「幼兒へ
の題材と其の晰し方」第
八講、翌九日午前十時家庭
講座同演題第九講、同日午
後六時子供の時間にて童話
「大きな高下駄」と決定した

尾形氏の出發

昨報
石城郡農林技師を退職せる
尾形治右衛門氏は七日午前
八時廿分平驛發にて歸郷の
途に着く筈であるが住居を
仙台市半子町五六に定めた
由

大切な入學期と

兒童教育の將來

最初の習慣が大切であると

曾我平第一校長談

小學校兒童の入學期に際し
て今まで自由な家庭生活に
ばかりいそしんで来たのが
入學すると多數の群集生活
の中に入らなければならぬ
ばかりでなく

規則的 な生活にな

るので自ら環境が異なつて
来るのであるから母親とし
てすべての方面に十分なる
注意が必要となつて来る、
先づ大切な事は規律正しい

根強く

及ぼして行
くものはないのであるから
早起き早寝の習慣は勿論自
分の事はなるべく自分で處
理させ、他に依頼心を持た
せないやうにせねばならぬ
毎日の登校時間までに學用
品の整理は自分で
忘れ物 のないやう

大切で

ある、學校
から歸つて来たたらカバンや
雨具その他すべて一定の場
所に整頓させそれから一時
休養させながらその日の模
様を聞いて見る事も必要で
ある、そして學校に通ふ事
に興味をもたせるのである
學校の 歸り時間は
豫め計つておいて他に寄り

勵行さ

せなければ
ならぬのであるが、然し心
身未だ發達せざる幼い頃に
過重な勉強は却て弊害を招
く基になるからその點は充
分に考慮を拂はなければな
らぬ、要するに小學校兒童の
入學期は將來におけるすべ
てのスタートとなるのであ
るからこの際に

細心の

注意を拂つ

大差がない

屠畜の頭數

昨年と
平屠畜場に於ける去月中の
屠畜數及其の斤量は牛十三
頭(二千三百四十八キロ)豚
百四十五頭(六千四百七十
五キロ)馬三十三頭(四千
七百八十キロ)で昨年の同
期に比し大した増減がない

募集

文藝其他投稿
を募集します